



ほごしや
保護者のみなさまへ

こうちょう じゅんこうちょう
校長・准校長だより

令和5年12月21日 No.8

大阪府立西浦支援学校

校長 山崎 彩

准校長 鈴木 亮彦

ねん のこ すく とし むか
2023年も残り少なくなりました～よいお年をお迎えください～

2023年は、生活様式が「アフターコロナ」ということで、元の生活に戻る部分と、感染症の流行によりもたらされた生活様式が合わさった、新しい生活様式が進んだ年だったように感じます。日常生活でも、学校教育でも更にICTが進み、「AI」「メタバース」等の導入の話題をよく見聞きするようになってきました。



本校では、久しぶりに入場制限のない体育大会、対面型での学校間交流の実施の他、校内でのぶどう栽培スタートに向けたビニルハウスの建設準備等、新たなチャレンジが始まった年でありました。来年は、これらをよりよいものにしていくとともに、変化を続ける社会状況を見据え、変化が必要なものと、変わらず大切にしていけるものを見極め、教育活動に反映させていきたいと思っております。来年も引き続き本校の教育活動にご理解、ご協力の程よろしく願いいたします。

インフルエンザ等の感染症流行の状況もございます。どうぞご自愛いただき、皆さまよいお年をお迎えください。

はたら ことについて～新年に向け、目標を立てませんか～

報道等で、「人手不足」による生活への影響についての話題をよく見聞きするようになりました。高等学校の新卒者に対する求人倍率が上がっており、障害者雇用に対する需要も高まっています。

学校としては、この状況に乗じて就職率を上げることを目標にするのではなく、児童生徒一人ひとりが「働く」※ことを通じてどのように人生を豊かなものにしていくかを大切に、「働く」ことに長く携われる素地を育てていくことが役割であると考えています。

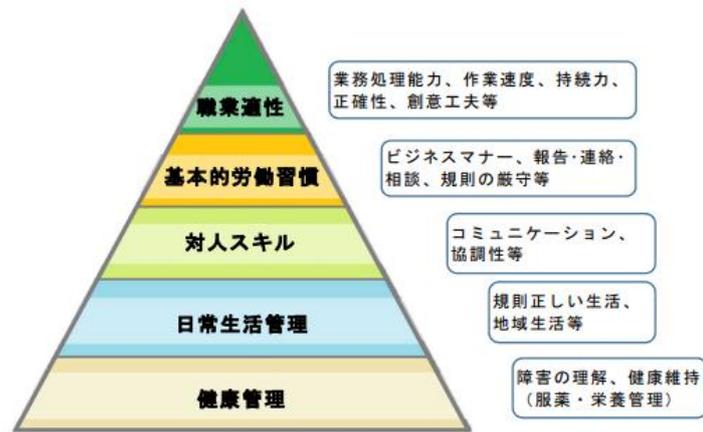
先日の進路講演会で講師の方のお話の中に、技術やビジネスマナーは就労後に身につけていくことは可能であるが、いわ

ゆる「習慣」に紐づくものは、就労後に身につけるのは難しい、という話題がありました。長い年月を経て身につける「習慣」を、就労後に学ぶために費やせる時間はないため、在学中に身につけてほしいということでした。

「習慣」に紐づくものとしては、挨拶、早寝早起きを含む生活リズム、食事面のマナー、返事等様々なものがあります。これらは、学校だけで身につけるものでなく、学校だけでできていても「習慣」にはなっていません。障がいがある方にとっては日々の積み重ねが必要であり、家庭と学校が同じ様に実践をすることが大切です。

子どもは身近な大人の振る舞いをよく見て学びます。新年を迎えるにあたり、よりよい習慣を身につける取組を始めてみませんか。

※「働く」：企業就労だけでなく、福祉就労や軽作業も含めて記載しています。



【図1 就労準備性ピラミッド】

(出典：障害者職業センター)

【参考】

障がい者総合研究所「働く目的に関するアンケート調査」の結果によると、働く目的を「収入を得るため」と回答した人は66%で過半数を超えており、次いで2位「仕事を通じて社会貢献をしたい」3位「自分の能力や人間性を高めるため」4位「人間関係を豊かにするため」という結果が出ていました。